

日本文藝研究

第六十一巻 第一・二号

季 刊

前田家本『承久記』にみる王威と神意……北村 昌幸……1

漱石の満州講演……金 正勲……17

——その文明批評の予告編——

上海・内山書店文芸文化ネットワークの

形成と奥行……大橋 毅彦……35

——文芸漫談会機関誌「萬華鏡」を中心にして——

遠藤周作

『女の一生 一部・キクの場合』論……古浦 修子……59

——キクの「一生」とへ語り手への視点——

—————*—————*—————*

アルファベット頭文字語の

アクセントにおける式保存の例外……清水 泰行……1

——摂津方言若年層を調査対象として——

前 号 目 次

『栄花物語』の描く万寿二年 …………… 福 長 進… 1

西鶴の武人形象にみる歴史認識 …………… 森 田 雅 也… 23
——その敗將溢美の方法をめぐって(上)——

紀海音の浄瑠璃作者引退に関する一考察 …………… 石 田 賢 司… 43
——兄油煙斎貞柳との和解をめぐって——

編集後記

第六十一巻一・二号をお届けする。春の総会で承認されたように、機関誌の発行回数を年二回に移行する上での暫定措置として合併号の体裁をとったが、その効あつてか、やや内容多岐にわたる論文を収載できた。次号はより多くの論文が寄せられることを期待する。が、課題は他にもある。関学出身の竹中郁が主宰した「羅針」と大連や広州で産声を挙げた「亜」や「銅鑼」との間に相互の寄贈関係が成立していたように、内輪で自足することなく、外部の研究者や機関誌と接触する可能性も模索できればよい、と考える。

(大橋)

投稿・執筆について

- 一、執筆資格をもつものは、日本文学会会員、『日本文藝研究』購読会員の他、編集委員会が認めたものとする。
- 二、原稿内容は日本文学および日本語を主な対象とし、未公刊のものにかぎる。
- 三、研究論文は四百字詰め原稿用紙換算で三十五枚を目安とする。研究論文以外の原稿については編集委員会に問い合わせること。
- 四、投稿は随時受け付ける。
- 五、原稿の採否は、編集委員会が決定する。
- 六、本誌に掲載された論文などの著作権は著者に帰属するものとする。ただし、関西学院大学日本文学会は、本誌に掲載された原稿を電子化または複製の形態などで公開する権利を有するものとする。

二〇〇二年十月

関西学院大学日本文学会

二〇〇九年九月五日 印刷

二〇〇九年九月十日 発行

定価八〇〇円

日本文藝研究 第六十一巻第一・二号

〒六二一八〇一

西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学日本文学会

(〇七九八)五四一六二八(直通)

編集兼 発行者 細川正義

発行所 日本文学会

〒六一五〇〇五 京都市右京区西院清水町二三

印刷所 協和印刷株式会社

TEL (〇七五)三二四〇一一

FAX (〇七五)三二四〇一一

注文規定

御注文は前金にて関西学院大学日本文学会へ御願いたします。振替を御利用ください。(振替〇二五〇一七六〇五八五)

一年分(送料共)三、〇〇〇円